

## 中世の城、城下町、黄金伝説

### 自己紹介

私の専門は、中世の城と都市の考古学です。

現在は筑波山麓の桜川市に勤め、国指定史跡・真壁城跡の発掘と復元整備を担当しています。小野地区出身（旧大宮町・昭和48年生）ですので、故郷に恩返しができるよう頑張ります。

中世遺跡は400年～800年も前のものですが、日常の風景の中に意外と残っています。考古資料や歴史の風景の魅力を、市民のみなさんと発見し、体験をともにしながら、未来に伝えたいと思います。

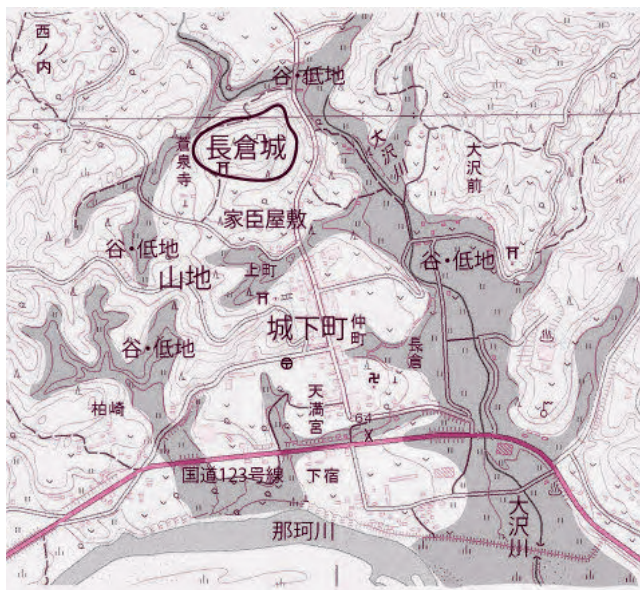
では、現在の調査を少し紹介しましょう。

### 城と城下町の調査 ―中世のまちづくり―

中世の城は、曲輪（くるわ）という兵隊の駐屯地のなかに、櫓、門、堀、兵舎等を建てる軍事施設です。外周は土塁（どるい・大きな土手）、堀（ほり・大溝）、切岸（きりぎし・ガケ）等を作って守りました。

調査では、城の形とともに、自然地形や城下町も観察して、まちづくりの全体像を調べています。

例として、長倉城跡（御前山地区・長倉）をみてみましょう。長倉城は鎌倉時代の文保元年（1317）築城を伝え、戦いを多く経験した「歴戦の山城」です。



▲長倉城と城下町、高低差の大きい自然地形（灰色）



考古部会専門調査員 宇留野 主税  
(桜川市教育委員会 生涯学習課副主査)

「御本城山」と呼ばれる城跡は、長倉地内北部山地の一角にあり、「長倉宿」は中世城下町が起源です（『館と宿の中世』常陸大宮市2009年刊行）。

左図は長倉城と城下町を囲む自然地形。北・西は山と谷、南は那珂川、東は谷と大沢川と低地です。図1の灰色部分は、城の堀や切岸のような役目を果たす地形です。長倉城と城下町は、この地形を利用して、広い範囲を一体的に守り、敵を防いでいます。

中世の城を中心とするまちづくりは、城と「城のような自然地形」を組み合わせ安全を保障し、城下町の発展につなげました。中世のまちづくりの知恵について、市内各地から学びたいと思います。

### 黄金伝説！？ ―金地名と伝承地―

常陸大宮市は、金をとったという伝承が各地にあります。特に久慈川や玉川沿いは「金堀」等の地名や金採掘伝承が多いようです。

これらの伝承地は、①砂金をとった場所、②金鉱石を掘る金山（山方地区・久隆地内）、③金鉱石を集める拠点（美和地区・上檜沢地内）などです。今後は、産金や地域交流の実態などを調査します。

### ■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎52 - 1111（内線344）